

◆一関出張所管内を流れる東北地方で一番大きい北上川は、平泉文化が栄えた背景に深く関わっていたことをシリーズ化してご紹介しています。

## 北上川と共に生きた平泉文化 第16弾 (終)

— 平泉文化を後世に残すため【国の取り組み】 —

# 平泉・世界遺産登録への道のり

### 柳之御所遺跡の保存活動の高まりが、世界遺産への始まり

#### 保存活動が高まるまで

1988（昭和63）年、柳之御所遺跡の緊急発掘調査が始まりました。この調査で、遺跡は奥州藤原氏の居館であったことが明らかになり、1995（平成7）年、国土交通省は堤防とバイパスのルート計画を変更、柳之御所遺跡は保存されることになりました。

平泉に関する研究は、寺院中心とされがちでしたが、柳之御所遺跡の調査によって、居館や都市などの研究が盛んに行われるようになりました。このことが契機となり、世界遺産登録への取り組みが始まりました。

#### 世界遺産登録になるまで

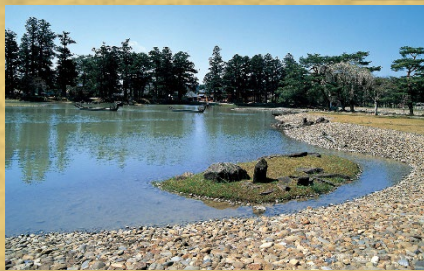
2001（平成13）年に「平泉の文化遺産」が世界遺産暫定リストに登載されました。その後、2008（平成20）年に開催された世界遺産委員会において、一度は、登録延期の勧告を受けましたが、地域の方々の熱意に支えられて、平泉の価値の立証等、世界遺産登録に向けた活動が続けられました。

その後、2011（平成23）年6月29日、パリで開催された第35回ユネスコ世界遺産委員会において、中尊寺、毛越寺、観自在王院跡、無量光院跡、金鶏山の5資産が世界遺産に登録されました。

柳之御所遺跡を含む5資産は、追加による世界遺産登録を目指す取り組みを進めています。

【登録名称】  
 平泉—仏国土（浄土）を表す建築、庭園及び考古学的遺跡群—

#### 対象の5資産



毛越寺



中尊寺



観自在王院跡



無量光院跡



金鶏山

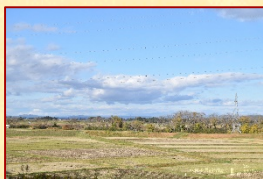
#### 【追加による世界遺産登録を目指す5資産】



柳之御所遺跡



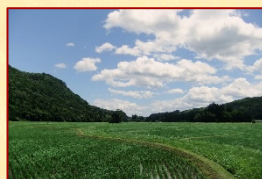
長者ヶ原廃寺跡



白鳥館遺跡



たつこくのいわや  
 達谷窟



ほねでらむらしょうえん いせき  
 骨寺村荘園遺跡

※バックナンバーはこちら [http://www.thr.mlit.go.jp/iwate/svuttvouiyo/itinoseki/2020/2020\\_ichinoseki.htm](http://www.thr.mlit.go.jp/iwate/svuttvouiyo/itinoseki/2020/2020_ichinoseki.htm)  
 第1弾 NO.467 第2弾 NO.468 第3弾 NO.470 第4弾 NO.478 第5弾 NO.479 第6弾 NO.480  
 第7弾 NO.482 第8弾 NO.486 第9弾 NO.487 第10弾 NO.493 第11弾 NO.495 第12弾 NO.506 第13弾 NO.508 第14弾 NO.509 第15弾 NO.511

※北上川学習交流館 あいぼーと展示資料より